

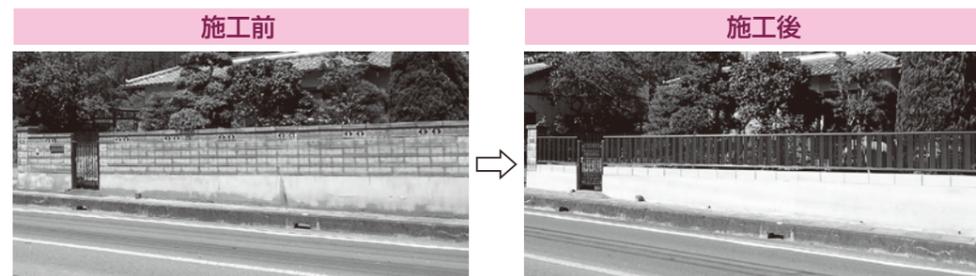
危険ブロック塀等の撤去費及び築造費を補助します

町では、道路等に面した危険ブロック塀等の撤去費用及び撤去後に新たに安全な塀等を築造する費用に対して、補助金を交付します。

補助対象物

- ①道路等に面しているもの
- ②建築基準法に適合しないもの又は道路等からの高さが0.8m以上で劣化や損傷があり、撤去する必要があると町長が認めるもの

補助対象者 ● 危険ブロック塀等のある敷地又はその敷地に存する建築物の所有者又は管理者で町税の滞納がない人



町内での事例
令和元年4月1日より補助制度を施行してから、町内で事業に協力していただき、高い塀を撤去し軽量のフェンスに改修した事例です。

補助金額

- 危険ブロック塀等の撤去
1平方メートル当たり5千円を乗じた額と補助対象経費の額を比較していずれか少ない額とし、上限額10万円とします。
- 安全な塀の築造等
1メートル当たり1万円を乗じた額と補助対象経費の額を比較していずれか少ない額の2分の1を補助額とし、上限額10万円とします。

申込&問合せ ● 事前に両神庁舎・建設課にお問い合わせのうえ、事業を実施する前に必要な書類を添えて申請してください。なお、申請書等は建設課で配布しています。
両神庁舎・建設課 ☎79-1204

Let's Try ボルダリング〜クライミングによるまちおこし〜 VOL.6

クライミングの聖地・二子山

今回は、小鹿野町の西部・群馬県境に位置する「二子山(標高1,165m)」を紹介いたします。

二子山は、埼玉県立西秩父自然公園に位置する西岳と東岳の二つの頂を持つ岩峰で、四季折々に独特な山容を見せ、町民の皆さんには、昔から馴染み深い山だと思います。独立した岩山は秩父では珍しく、登頂するとヨーロッパアルプスのような感覚を味わえ、ロッククライミングを楽しむ人が近年かなり増加しています。

また、この山は、世界的クライマーで小鹿野町観光大使でもある平山ユージさんにとっても思い出深い、特別な岩場だそうです。



皆さんも、来年オープンするボルダリング施設で腕を磨き、二子山の岩場に挑戦してみたい方がたくさんいます。新しい発見があると思います!

問合せ ● 小鹿野庁舎・総務課 まちづくり推進室 ☎26-6581

文化財ノート

No.20

問合せ ◆ 教育委員会社会教育課 ☎75-0063

◆ ジオパーク秩父が2度目の再認定審査を受けました ◆



おがの化石館で活動報告

10月25日から27日までの3日間、ジオパーク秩父の再認定現地審査が行われました。

ジオパークとは、「地球・大地(ジオ:Geo)」と「公園(パーク:Park)」とを組み合わせた言葉で、「大地の公園」を意味し、地球(ジオ)を学び、丸ごと楽しむことができる場所をいいます。

ジオパーク秩父は、秩父地域1市4町(秩父市、横瀬町、皆野町、長瀬町、小鹿野町)をエリア(約89,250ha)としており、平成23年に当時国内で15番目の日本ジオパークに認定を受け(現在国内に44カ所)、その後、平成27年に再認定を受けました。

今回の再認定審査では、前回の審査からの4年間の活動が審査されました。

地質や地形というと一般的に難しいイメージがあると思いますが、ようばけや小鹿野の地形など身近なものからだと、地質や地形の成り立ちやそれらと人の暮らしの関わりを実感しやすく、楽しめると思います。

今回の現地審査では、町内では札所32番法性寺の観音堂にあるタフォニ地形とようばけ・おがの化石館の見学を行いました。

審査結果は12月中旬に発表される予定です。従来の文化財の枠組みだけでなく、大地の記憶を伝える地質遺産を保全するための活動に大勢の町民の方々のご協力をお願いします。



札所32番を見学

町立病院医師の

気になるつぶやき
小鹿野中央病院 平田 まりの

もしバナゲーム



師走に入り、夜祭、クリスマス、年越し、元旦とイベントが目白押し。普段の月よりご家族と外出やご飯を一緒に食べる機会も増えているのではないのでしょうか。年末年始

に娘・息子、孫、ひ孫たちと会う機会を持たれる方もいるでしょう。

世代や育った環境が違う人とも一気に距離が近づき、楽しい方法をご存知ですか?それはゲームです。身近なものとして、将棋、オセロ、トランプ、テレビゲームなど。今回、ぜひおすすめしたいのがIACPという団体の「もしバナゲーム」です。Amazonで手に入ります。当院から出前講座もできます。

もしバナゲームは、36枚のカードを使います。カードには「どのようにケアしてほしいか」、「誰にそばにいてほしいか」、「ユーモアや心の平安など自分にとって何が大事か」に関する内容が書いてあります。その中から参加者それぞれが「自分にとって大事」と思うカードを選んでいきま

す。ゲームを通して家族に自分が大事にしていることや、もしもの時の願いを知ってもらうことができます。人生の最後にどうありたいか、だれもが大切な事だとわかっていると思いますが、何となく「縁起でもないから」という理由で避けていませんか。

もしもの時はいつ来るかわかりません。でも、たとえ自分の意識がなくなる状態になっても、私の希望や考えを知っている人がいると安心しますよね。そして周りの人も、事前に知っておくことで、もしもの時に決断を迫られても必要以上に思い悩んだり、決断によって自分を責めたりすることがなくなり、負担が減ることになるでしょう。いざというときに必要なことですが、「もしもの時の話をしよう」というよりは「ゲームをやろう」の方が気安く誘えますね。

話して安心したからといってお酒を飲みすぎたり、勢い余ってお餅をつまらせたりしないように気を付けてくださいね。

これからますます寒くなりますが、お体どうぞお大事に良いお年をお迎えください。